

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件 名	要 旨
12/4 (木)	1	18 西山彰人	1、三豊市の働き方改革について	三豊市の働き方改革の取り組み、特にサービス残業の対策を伺う。
			2、三豊市のハラスメントについて	三豊市では各種のハラスメントが告発されているが対応について伺う。
			3、三豊市のイベントの取り扱いについて	事務事業の見直しに伴い、各種イベントをどうするのか伺う。
			4、学校等への防犯カメラの設置について	犯罪の防止や事後の対策のために学校や幼稚園・保育所などに防犯カメラを設置してはどうか。
	2	16 為広員史	1、行財政改革について	合併特例債の終了や棚卸しについて、少し説明はあったがもう少し詳しい組織改革等についても聞く。
			2、少子化対策について	現在も対応はされていると思うが本気の考えを聞く。
			3、讃岐造船跡地について	現在の進捗状況を聞く。
			4、給食費の無償化について	国等でも協議されている。それに先駆けて実施をしていただきたいが考えを聞く。
	3	2 田中達也	1、行政課題解決に向けたオープンデータ整備とスタートアップ支援	<p>前回、行政課題をテーマとした優先発注の仕組みを提案した。その実効性を高めるためには、スタートアップが質の高いソリューションを開発できる強固なデータ基盤の整備が不可欠である。</p> <p>現状、三豊市ではベーシックインフラデータ連携基盤を実装しているが、匿名化の困難を理由に行政データの登録が停滞している。この課題を打破するためには、二つの側面からの取り組みが必要である。</p> <p>第一に、匿名化を進めることで既存データの公開を促進し、行政の透明性と市民の信頼を確保すること。第二に、匿名化の壁を回避し、民間では収集困難な粒度の細かいデータ(例:高精度な地理空間情報)を整備することで、スタートアップが地域課題に挑戦できる環境を構築することである。</p> <p>この二つの戦略を並行して進めることにより、行政課題解決と地域DXの加速を図るべきであると考えている。</p> <p>以下について質問する。</p> <p>(1)現状の課題と公共投資の戦略的転換</p> <p>(2)データガバナンスと匿名化推進</p> <p>(3)官学連携と成果検証</p>

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/4 (木)	4	20 詫間政司	1、みとよ市民病院に対する経営支援について	全国的に自治体病院の経営は厳しい状況にあり、当院も例外ではなく経営難に直面している。しかしながら、自治体病院は人口減少や過疎が進む地域において、その存在意義は一層高まっている。当院は過去4年間で3度市から貸し付けを受けてきたが、診療報酬の影響や諸物価変動、人材確保難等の経営環境が激変する中で、経営努力も追いつかず不足額が生じることは避けられない状況だ。自治体病院の存在意義を堅持すべく、市が責任をもって補填し経営を安定させるべきではないか。市として、みとよ市民病院への経営支援をどのように考えているのかを問う。
			2、三豊市独自の脱炭素社会と流域治水について	令和7年度施政方針では、「やみくもに温室効果ガスの削減を進めるのではなく、吸収量を増やす」ことが「市独自の脱炭素社会」だと示されている。従来の「減らす」から「育てる・守る・増やす」という発想へと転換するものだ。一方で、自然災害の激甚化が進むなか、流域全体を対象とした治水の重要性は高まっている。気候変動の対応を「守る」だけでなく、「新しい価値を生み出す地域戦略」として位置付けることが、市独自の脱炭素社会と流域治水をつなぐカギになると考える。「循環」と「防災」の両立を図る三豊モデルとして進化させることはできないかを問う。
			3、新設小学校の通学環境とスクールバス運行基準の見直しについて	教育環境の充実と持続可能な学校運営を目的に、小学校の統合と新設が進められている。しかし、豊中地区の新設小学校を中心とした通学環境は、地形や道路事情により、安全面に大きな課題が残っている。現行では「2km以上」をバス利用対象としているが、2km未満でも危険な通学路が多く存在している。距離だけではなく、道路構造や周辺環境の実態を踏まえた運行基準の見直しについて問う。
12/5 (金)	5	19 浜口恭行	1、養殖カキの大量死について	本市を含む瀬戸内海で養殖カキが大量死し、壊滅的な打撃を受けている。市内のカキ養殖業の現状把握と被害実態、また被害原因の調査が行われ、再生・復興に向けた支援策を考えるべきではないのか。緊急支援(補助金・給付金)を含む、具体的な検討ができるのかを聞く。
			2、詫間港の活用全般と、詫間地域の地域課題の解決について	(1)詫間港の現状と今後の活用について(港湾活用) 詫間港は、瀬戸内海に面した本市の重要な地域資源であり、漁業・産業・物流拠点としてだけでなく、観光や地域活性化の資源としてのポテンシャルを持っているが、近年は、地盤沈下が懸念されている。 ①詫間港の現状の利用状況(漁業、レジャー、物流など)をどのように把握しているのか。 ②老朽化した民有護岸や水面貯木場の課題はどうしていくのか。 ③観光振興(島しょ部へのアクセス拠点、マリンレジャー、ウォーターフロント活用など)としての活用可能性を市としてどのように検討しているのか。 ④将来的に詫間港をどのような港として位置付けるのか、市としてのビジョンを伺いたい。 (2)旧永康病院の跡地について (3)防災・インフラの改善対策 (4)地域資源の活用など 詫間地域の課題全般について聞く。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/5 (金)	6	5 横山 強	1、9月の一般質問を再質問と市長から議会に対するハラスメントの申入れについて	(1)9月の一般質問に対し、全般の市長答弁と、一般質問後の市民センター詫間事業・讃岐造船跡地事業に対する工事費用等の無駄遣い等を広範囲に伺う。 (2)9月の一般質問に対して、職員の無駄遣いと管理ミスの矛先を変えて質問者をハラスメントにした問題点(10日・11日・(12日市長室での対談含む))等を広範囲に伺う。
	7	21 金子辰男	1、デジ田・SDGs・AI・総務省派遣職員等について	市は、末端の行政を担う自治体として、市民の暮らしを少しでも豊かにしていく責任があると考え。これまで三豊市が行ってきた、デジタル田園都市国家構想(デジ田)、SDGs(エス・ディー・ジーズ)、市が導入してきたAI施策、総務省から派遣された職員による取り組みなど、これらの政策や事業は、市民の暮らしを実際に豊かにしたと言えるのか。 その成果を、具体的に伺う。
			2、三豊市の外国人について	外国人も含め、ルールを守って生活している市民の方々が住みにくくなってはいけない。不法滞在・不法就労は許されないと考える。不法就労や不法滞在の現状と市の考え方、及び今後の対応について伺う。 また、外国人の不動産取引の実態は把握しているのか、土地や森林取得についての調査は行われているのか。外国人が取得した土地について固定資産税等の税金の徴収状況を伺う。
	8	9 込山文吉	1、放課後児童クラブの医療的ケア児を含む障害児の受け入れ体制について	(1)三豊市の受け入れ状況を聞く。 障害のある児童数、医療的ケア児の在籍数、希望者が受け入れられなかった事案の有無 (2)インクルージョン推進に向けた今後の展望について 障害のある児童とない児童が互いに学び合い、共に成長できる環境づくりのための取り組みを聞く。
			2、畑地灌漑施設の管理体制について	(1)畑地灌漑施設の老朽化率と更新必要箇所の把握とデータ化について聞く。 (2)管理体制の課題と支援策、体制強化について考えを聞く。 (3)賦課金の現状と負担増による離脱防止策の考えを聞く。 (4)新規就農者への支援と合わせて受益者確保に向けた計画を聞く。
			3、市内スポーツ施設の総点検について	(1)財田B&G海洋センター体育館床及びトイレについて (2)高瀬B&G海洋センター体育館雨漏り及び内装壁の剥がれ、トイレについて (3)高瀬B&G海洋センター艇庫雨漏り、トイレ、カヌーについて (4)豊中サンスポーツランド野球場トイレについて
			4、不登校児童生徒への支援体制の一層の強化	(1)不登校児童生徒の増加要因をどのように分析し、課題を認識されているかを聞く。 (2)校内サポートルームや教育支援センター、そして「こども家庭センター なないろ」などを活用した支援体制の現状と、成果・課題を聞く。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/5 (金)	9	12 岩田秀樹	1、人工芝の多用化と環境対策について	海洋中のプラスチックごみの重量が2050年には、魚の重量を超えると予想される。 このようなプラスチックによる海洋汚染の大きな要因として、人工芝が注目されている。人工芝由来のマイクロプラスチックが日光にさらされると劣化しやすいことはよく知られている。 人工芝を活用した施設の面積と今後の有害物質を含む環境対策はどう考えているか。
			2、道路交通法の変更に伴う交通安全教育の実施とヘルメットの補助制度について	令和8年の4月より16歳以上の自転車運転に対して、青切符が切られることになった。 自転車通行帯の規定などを含め、交通安全教育を中学時代から実施することを求める。
			3、防災行政無線による広報・全体放送の充実について	朝・夕の放送は市政・議会と市民のかけはしである。 朝の放送は、以前もう少し細かい内容の放送があったはず。ネット環境のない人もいるため、内容をもう少しお知らせするなど、丁寧な放送はできないのか。
			4、三豊市の財政力指数は0.42を推移している。歳入増加対策は	市の財政力強化のための取り組みをどのように考えているのか。具体的に、太陽光パネルの固定資産税増収があったが、税収に限らずこのような取り組みは検討しているのか。
			5、豊中小学校(仮称)放課後児童クラブについて	希望者が生徒数の約半数と聞く。1クラス指導員2名で5クラスを運営するとのことであるが、スペースが狭小である。生徒数が多く指導がいきわたるのかどうか不安である。 豊中町は、大型幼稚園など大型施設となっているが、放課後児童クラブは十分に検討の必要があるのではないか。
12/8 (月)	10	1 湯口 新	1、少子化対策について	少子化の原因は「女性人口の減少」と「婚姻数の減少と未婚率の上昇」の二つの要因が大きいと言われてきたが、近年では「結婚した夫婦のこどもの数の減少」も影響してきていると聞く。 そのような中でグランドデザインに示された子育て支援拠点の整備を含む【本庁舎周辺の将来イメージ】については実現が困難な状況となっている。 子育て支援拠点の整備についての現状と今後は。 また少子化の原因のうち「婚姻数の減少と未婚率の上昇」と「結婚した夫婦のこどもの数の減少」の対策について詳しく聞く。
			2、身体に障がいがある方の意見の取り入れ方	公共施設を整備する際の身体に障がいがある方の意見の取り入れ方について聞く。
			3、みとよ市民病院の売り上げ促進戦略	みとよ市民病院をもっと広く市民に利用してもらうためにはイメージの向上も必要である。戦略はあるのか。

発言通告書の要旨(一般質問)

令和7年第4回定例会

質問日	質問順	議席/氏名	件名	要旨
12/8 (月)	11	15 瀧本哲史	1、公務員の労働問題について	<p>現在、公務員の労働問題が深刻な状況にある。</p> <p>私の耳には特に、市役所関係者、学校関係者から、この問題についてお聞きする機会がある。</p> <p>全国的にカスハラ(カスタマーハラスメント)という言葉が認知され出した。</p> <p>地方自治体も条例制定などの動きがある。</p> <p>その中で、三豊市としての考えや、これからの対応をお聞きする。</p>
	12	8 水本真奈美	1、目の健康について	<p>児童生徒の目の健康予防について伺う。</p>
			2、市民後見人制度の活用促進と成年後見人等送付先住所変更の一括手続について	<p>近年の高齢化の進展に伴い、認知症高齢者の増加は社会的課題となっており、これに伴って成年後見制度の需要も一層高まると見込まれる。</p> <p>(1)本市の成年後見制度及び市民後見人制度の利用者数と今後の見通しについて</p> <p>(2)成年後見人等が各種通知等の送付先変更を一括して登録・変更できる仕組みの導入について、本市はどのように課題を認識し、検討しているのか伺う。</p>
			3、公共施設に授乳室及び搾乳室の設置について	<p>最近、他の自治体において子育て支援施設や公共施設、商業施設等に授乳室や搾乳室が設置されているのを見かける。子育て支援の充実として、必要とする方が安心して授乳、搾乳できる環境づくりに取り組む考えについて伺う。</p> <p>(1)公共施設における授乳室及び搾乳室の設置数について</p> <p>(2)災害時の避難所に授乳室、搾乳室の設置配慮の考え</p> <p>(3)授乳室及び搾乳室の設置について市の考えを伺う。</p>
	13	17 三木秀樹	1、現場主義を放棄したつもりは無いと常々公言し、全事業の『棚卸し』議論は「R7年は改選期だから先送りの声」に「無責任以外何物でもない」と断言し、10年先20年の基盤づくりを、議会にも市民にも知らせず市役所内部だけで5年先の方針を決定した「事務事業の見直し」の決定責任者である市長に質問する。 簡潔に答弁願います。	<p>(1)市役所の全事業、916事業を調査し、見える化を行ったのは「初めてで、遅々として進まず」(9月議会)と言っていたが、いつの時点で「事務事業見直し推進本部」(本部長、山下昭史市長)が方針を決定したのか。</p> <p>(2)単なる延期(改選期だから棚卸し議論の延期を！)して何の問題も解決しない場合は「無責任以外何物でもない」と断言し、「市民、議員に何の経過も決定の方針も周知、知らせない」のは、政府からの「行政政策の在り方」に違反し、首長としての、政治力を含めて大きな課題が有るのではないのか。</p> <p>(3)「必要性、有効性、効率性、公平性」等の観点で評価すると2009年の合併当時から言われ出した「行政における判断基準」を持ち出したが、三豊市自ら「公平性」を無視し、デジタルファーストと銘打って政府からの「高物価支援交付金を偏った支給」で3年間やって来た事実の反省も無く、「市民サービスを守る」為の事業見直しとっているが、昨今の大きな客観的情勢の変化と急激な変転を「意識しない、意識できない」事務事業の見直し方針では、市民の公共サービスの低下を招くのではないのか。</p> <p>(4)公共施設の使用料の「見直し」及び補助金交付団体の事務局を市職員が担っている事業の「見直し」は、平成24年の「まちづくり推進隊の組織化」時点の「意義」を討議した「成果を踏まえて」、今回方針化しているのか。</p> <p>(5)スクラップ＆ビルド。60年前から言われている「効率化すれば・・・職員の業務量が減るために・・・時間外手当等が削減され・・・時間外勤務が減れば・・・働き方改革にも繋がり・・・若い職員の勤労意欲の向上」の三段論法方式の記述。 合併後、10年前も20年前も「キャッチフレーズを変えた効率化の戦術が展開」された。試行錯誤！「トライ＆エラー(試行錯誤)でやるしか無い」と繰り返す船長の政治力で、三豊市の展望はあるのか。ズバリ聞きたい。</p>